医療学部

# 視能訓練学科

Department of Orthoptics

【取得可能な資格】
視能訓練士国家試験受験資格

定員 40名

## 視能訓練学科が養成する人材

視能訓練士は、眼科領域における専門技術者であり、大切な眼の健康を守る視覚のエキスパートです。近年、眼科医療の進歩はめざましく、視能訓練士の知識、技術、実践力においてもより高度な質が求められています。視能訓練学科では、高度に発展、分化しつつある医療技術に対応できる専門性の高い知識と技術を身につけた、優れた臨床能力を有する視能訓練士を養成します。さらに、学科の枠を超えた連携教育により、リハビリテーションの理念やチーム医療・チームケアに求められる高度なコミュニケーション能力を育て、トータルケアの実践をめざす次世代の視能訓練士を養成します。

### Admission Policy　アドミッション・ポリシー

①視能訓練の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
②基本的倫理観を持つ者
③各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
④海外の保健・医療・福祉、特に視能訓練に興味を持つ者

九州で唯一となる4年制大学の視能訓練学科です。

### Message

視能訓練士は、眼の健康を守り患者さんの日常生活を支える、視覚のエキスパートです。みなさんも今までに眼鏡やコンタクトレンズ処方のために、お世話になったことがあるかもしれません。しかし、視能訓練士の仕事はそれだけではありません。医療施設では、眼に関するさまざまな疾患の検査（視力、屈折、視野、眼底写真、網膜電図、超音波検査など）を行うとともに、乳幼児の弱視や斜視の訓練治療も行っています。さらに視機能に障害が残った患者さんのために、補助具の選定と使い方の指導も行う幅の広い仕事です。現在、日本では急速に高齢化が進んでいます。健康な老後のためには、眼の健康を守ることが欠かせません。眼の健康を守る視覚のエキスパート・視能訓練士は、今後の日本に欠かせない重要な職業なのです。

視能訓練学科長
吉冨 健志 教授

九州大学医学部医学科、九州大学大学院医学研究科外科系専攻修了、医学博士
秋田大学医学部感覚器学講座眼科学分野教授、同大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系眼科学講座教授を経て現職。
日本眼科学会理事、第71回日本臨床眼科学会会長、日本神経眼科学会理事、日本緑内障学会理事、日本眼薬理学会理事長。

## 視能訓練学科の特色

九州で唯一となる4年制大学の視能訓練学科であり、優秀な視能訓練士の育成に大きな期待が寄せられています。QOL（生活の質）の維持に重要な眼科医療の現場で、生涯を通じて「見る」ことを探究し、「見える」喜びに共感できる視能訓練士を養成します。

### POINT.01
発展著しい眼科医療に対応できる知識を修得する

「視能検査学」「視能障害学」では、検査機器の原理、操作方法や、検査手技から眼疾患の治療に至るまで、結びつきを重視しながら理解します。講義時間を多くとることで、検査、診断、治療に関する最先端の知識を得るとともに、白内障や緑内障などの眼疾患の術前検査、手術、術後検査までを一連の流れとして実践的に学びます。

### POINT.02
専門性を生かしながら他職種と連携する

眼科がカバーする分野は狭いと思われがちですが、視力や視野、眼球運動などは脳外科や神経内科と関連が深く、糖尿病や高血圧などの全身疾患とも深く関わっています。「関連職種連携ワーク」では他職種の視点を学ぶことで、専門性を生かしながら疾患を多角的に考察する力を身につけます。

### POINT.03
多彩なテーマで卒業研究に取り組む

眼科医、視能訓練士以外にも視覚研究を専門とする教員が複数在籍している視能訓練学科では、担当教員の指導の下、多彩なテーマで卒業研究に取り組むことができます。科学的分析力と創造力を養い、将来、視覚研究分野で活躍したいと考える学生をサポートします。

## [ 視能訓練士の主な業務～4つの柱～ ]

### 眼科一般検査
眼科診療に関わる視機能検査全般を行います。検査機器を駆使し、豊富な専門知識を活用して、診断に必要なデータを収集・分析します。

### 弱視・斜視の訓練
乳幼児期に斜視や強い屈折異常があると、両眼視機能や視力が正常に発達しないケースもあります。そうした斜視や弱視の患者さんに、両眼視機能や視力の発達を促す訓練、検査を行います。

### ロービジョンケア
高齢化、慢性疾患によって視機能が低下した低視覚（ロービジョン）者に対するリハビリテーションを担うほか、残存する視機能をでき得る限り活用するための補助具の選定なども行います。

### 健診業務
普段、病院に勤務する視能訓練士は、自治体からの要請に応じて健診に参加します。特に三歳児健診では、子どもの視機能について深い知識を持つ視能訓練士が活躍しています。

## [ 活躍のフィールド ]

**医療機関**
●総合病院眼科　●大学病院眼科　●眼科診療所

**医療行政機関**
●保健センター　●保健所

**福祉施設**
●リハビリテーションセンター ほか

## 視能訓練士として活躍中！

### 学会や研修会に積極的に参加し日々進化する眼科医療に対応したい

主に眼科医の指示のもと、視力検査や視野検査、画像診断検査をはじめ、斜視・弱視の方に対する検査や矯正訓練を行っています。また眼鏡処方やコンタクト検査なども行っています。
子どもから高齢者まで、たくさんの方とコミュニケーションを図ることができるのが、視能訓練士という仕事の魅力のひとつです。例えば、白内障などの手術後の患者様が「よく見えるようになった」と喜ばれたり、「ありがとう」と言葉をかけてくださった時には、この仕事を選んでよかったなと感じます。
眼科医療は、日々進化しています。今後も学会や研修会などには積極的に参加し、一人でも多くの患者様のQOL（生活の質）の向上を図りたいと考えています。どんなときでも患者様を心から理解し、患者様に寄り添える視能訓練士になりたいと思います。

PROFILE
2017年福岡国際医療福祉学院を卒業し、高木病院に入職。さまざまな疾患を抱えた患者さんが来院する高木病院で検査を行いながら、視能訓練士としてのスキルを磨いている。

右近 南聖 さん
高木病院　視能訓練士

# 実践的に
# 眼科医療を学び、
# 横断的に視覚を
# 学ぶカリキュラム

経験豊富な教員が多彩な講義を展開するとともに、少人数グループでの学内実習を取り入れることにより、発展著しい眼科医療に対応できる臨床力を養成します。また、「見る」仕組みを解明する視覚という学際的な研究分野で活躍できるように「視覚情報処理論Ⅰ(視知覚)」「視覚情報処理論Ⅱ(視覚認知)」「視覚と高次脳」などの科目を配置し、眼科領域を超えて視覚を多面的に学びます。視覚を横断的に学ぶことにより、論理的思考力を培い、生涯にわたって視覚を科学する姿勢を養います。

## 特色ある授業(演習・実習)

### 眼科画像解析学

眼科医療で急速に普及した画像解析検査を中心に、実際の症例画像を提示しながらカンファレンス形式で検討を繰り返すことで疾患病態をより深く学びます。さらに、視能訓練士として画像検査を行う際に特に注目すべきポイントを整理して、臨床現場で将来的に役立つ知識を修得します。

### ロービジョン学

視能訓練士の大事な業務の一つに「ロービジョンケア」があります。この授業では、ロービジョン者を含め視覚の問題を抱える方々を取り巻く現状を学び、今必要とされている支援が何かを皆で考えます。時には学内を飛び出し、関連施設の見学やフィールドでの調査、関係団体へのインタビュー取材といったテーマに取り組み、自ら行動し社会貢献できる能力を育成します。

### 視能訓練学

斜視や弱視の訓練と治療について学びます。提示された症例に対し、具体的な検査や予測される結果などについてグループで討論し、症例に対する治療プランを立案します。少人数のグループワークを行うことで臨床への応用力を身につけていきます。

VOICE

## 座学だけでなく実践的な授業が多いので、卒業後に視能訓練士として働くイメージがしやすい

視能訓練学科 3年
葉 優香 さん
(長崎県立長崎南高等学校出身)

私がこの大学の視能訓練学科を志望した理由は、福岡国際医療福祉大学が視能訓練士を養成している四年制大学だったからです。また、大学の立地条件が良く、学修するための設備や環境が充実していることも入学の決め手となりました。
入学後、最も印象に残っている授業は、1年次に開講された「視機能概論」です。この教科では、視能訓練士の主な業務や役割などを学ぶことができます。そのため、視能訓練士になるまでに必要な知識や経験などをイメージしやすく、視能訓練士になりたいという思いがますます強くなったことを覚えています。
学年が上がるにつれ、座学中心の授業から実践的な授業の割合が増えていきます。授業によっては自分の考えを友人たちにぶつけて討論するといった機会もあるため、楽しみながら学べる環境に感謝しています。また、今後はこれまでに学んだことを少しでも実践で活かせるようになりたいと思っています。そして、卒業後は患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんにとって一番の理解者となれる視能訓練士をめざしたいと思います。

## 4年間の学修の流れ

### 1年次

医学全般にわたる基礎知識と視機能の基礎を修得し、4年間の総合的学修の基礎固めを行います。

#### 専門基礎科目

【必修】
●解剖学 ●生理学 ●生理学実習 ●病理学 ●人間発達学 ●視機能概論 ●視器解剖学 ●視覚生理学Ⅰ(基礎)
●視覚情報処理論Ⅰ(視知覚) ●リハビリテーション概論 ●保育 ●聴覚障害とコミュニケーション
【選択】
□公衆衛生学 □リハビリテーション医学 □栄養学 □カウンセリング論 □ケアマネジメント論 □保健医療福祉制度論

#### 専門科目

【必修】
●視能矯正学Ⅰ(眼位・眼球運動) ●生理光学 ●屈折矯正Ⅰ(基礎と理論) ●視能検査学基礎 ●視能検査学Ⅰ(視力検査) ●視能障害学総論

#### 総合教育科目

【必修】
●心理学 ●社会保障制度論 ●データサイエンス ●医療とICT ●生命倫理 ●大学入門講座 ●医学英語Ⅰ ●医学英語Ⅱ
【選択】
□生物学 □生化学 □韓国語 □中国語

### 2年次

視機能のメカニズムから検査、眼疾病までを発展的に学びます。
専門科目を学ぶことで理想の視能訓練士像を明確にしていきます。

#### 専門基礎科目

【必修】
●臨床医学概論 ●内科学Ⅰ ●内科学Ⅱ ●神経学Ⅰ ●神経学Ⅱ ●精神医学Ⅰ ●小児科学 ●老年学 ●臨床心理学概論 ●救急医学
●基礎薬理学 ●視覚と高次脳 ●視覚生理学Ⅱ(応用) ●視覚情報処理論Ⅱ(視覚認知) ●関連職種連携論 ●視覚障害とコミュニケーション
【選択】
□精神医学Ⅱ

#### 専門科目

【必修】
●視能矯正学Ⅱ(両眼視機能) ●視能検査学Ⅱ(視野検査) ●視能検査学Ⅲ(前眼部検査) ●視能検査学Ⅳ(後眼部検査)
●視能障害学Ⅰ(神経眼科・緑内障) ●視能障害学Ⅱ(前眼部疾患) ●視能訓練学基礎Ⅰ(弱視) ●視能訓練学基礎Ⅱ(斜視)
●視能訓練学応用Ⅰ(弱視) ●視能訓練学応用Ⅱ(斜視) ●視能訓練学実践Ⅰ(弱視)

#### 総合教育科目

【必修】
●海外保健福祉事情Ⅰ(講義) ●海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

### 3年次

多くの学内実習を経験しながら、実践的に知識を積み上げていきます。
視覚を学際的に学ぶことにより眼科医療にとどまらない広い知識を修得します。

#### 専門基礎科目

【必修】
●眼薬理学 ●視覚生理学Ⅲ(実践) ●関連職種連携ワーク
【選択】
□リスクマネジメント論

#### 専門科目

【必修】
●屈折矯正Ⅱ(実践) ●視能矯正学総括論Ⅰ(基礎) ●卒業研究Ⅰ ●眼科画像解析学 ●視能検査評価学 ●視能障害学Ⅲ(黄斑部・網膜疾患)
●文献読解と研究実践法 ●OSCEⅠ(医療面接) ●OSCEⅡ(視能検査) ●視能訓練学基礎Ⅲ(眼振) ●視能訓練学実践Ⅱ(斜視)
●視能訓練学発展 ●ロービジョン学Ⅰ(理論) ●ロービジョン学Ⅱ(実践) ●臨地実習Ⅰ
【選択】
□視能矯正学特論 □視能検査学特論 □眼科診療コミュニケーション学 □視能障害学特論 □視能訓練学特論

#### 総合教育科目

1～4年次【選択】
□哲学 □倫理学 □文学 □教育学 □教育方法論 □コミュニケーション概論 □雑談と傾聴ー話す力と訊く力ー □日本近現代史
□宗教学 □アジア比較文化論 □法学 □経済学 □社会学 □国際医療福祉論 □ボランティア論 □ボランティア実践 □物理学
□人間工学 □医学・医療史 □健康科学理論 □健康スポーツ実践 □メディカルマナー入門 □医療福祉教養講義 □英語(基礎)
□英語(応用) □英会話

### 4年次

3年間で得た知識を臨地実習の場で実践します。実習終了後は卒業研究を完成させ、
同時に充実した国家試験対策で資格取得をめざします。

#### 専門科目

【必修】
●視能矯正学総括論Ⅱ(応用) ●卒業研究Ⅱ ●視能検査学総合演習 ●臨地実習Ⅱ

#### 総合教育科目

【選択】
□死生学ー死を通して生を考えるー

●=必修科目 □=選択科目